ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13 TEL 075-771-6051(代表) FAX 075-746-3366 rohmtheatrekyoto.jp

2022(令和 4)年 8 月 11 日 報道発表資料 [本リリース発信元] ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)



オペラ『蝶々夫人』の構造をひっくり返し、

日本/女性からの視点で西洋/男性を描き、人種やジェンダーなどの 先入観を痛烈に問い直す、市原佐都子の意欲作がいよいよ日本初演!

ステージ インキュベーション キョウト

ノイマルクト劇場 & 市原佐都子/ O [Madama Butterfly]

2022年9月15日(木)~9月17日(土) ロームシアター京都 ノースホール

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当:松本、山形 電話:075-771-6051(10:00~17:00) FAX:075-746-3366 Email:press@rohmtheatrekyoto.jp

■企画趣旨

ロームシアター京都レパートリー作品「妖精の問題 デラックス」(2021年度製作)に続く市原佐都子作品を上演します。約 100年以上前に西洋で描かれた物語を、同時代的視点で痛烈に問い直す意欲作の、満を持しての**日本初演**です。

本作は、市原とスイス・チューリヒのノイマルクト劇場の共同制作作品です。今回市原は、アジア圏の若手アーティストの協働を望んでいたノイマルクト劇場の指名により抜擢されました。市原により新たに書き下ろされた脚本を、劇場アンサンブル(専属俳優)や現地スタッフとの協働により製作し、出演には、市原作品に幾度も出演している日本人俳優・竹中香子も名を連ねます。

チューリヒ・シアター・スペクタクル(スイス)での初演後、ウィーン芸術週間やミュンヘン・シュピラート演劇祭等でも上演され、世界的にも注目を集めている今作を、コロナ禍での延期を経て、いよいよ日本で上演する運びとなりました。日本語・ドイツ語・英語での上演(日本語字幕あり)、今回の日本公演地は京都・豊岡(兵庫県)の関西 2 会場のみとなります。

内容は、西洋/男性からの視点で日本/女性が描かれたジャコモ・プッチーニのオペラ『蝶々夫人』を原案に、その構造をひっくり返した世界が描かれます。アジア人と白人という人種に対する社会的イメージの差、日本で「ハーフ」と称される混血の人々の置かれた状況、西洋から期待されるアジアや日本"らしさ"、男性からみた女性"らしさ"の正体…。日本/女性からの視点で西洋/男性を描き、人種やジェンダーなど、誰もが帰属するものへの先入観を痛烈に問い直します。

■『Madama Butterfly』上演歴

2021年9月 チューリヒ・シアター・スペクタクル (スイス)*世界初演

2021年10月 ノイマルクト劇場(スイス)、ミュンヘン・シュピラート演劇祭

2022 年 3 月 ノイマルクト劇場(スイス)

2022 年 5 月 ウィーン芸術週間/The Wiener Festwochen (オーストリア)

2022 年 6 月 Impulse Theater Festival (ドイツ)

■キャスト、スタッフ

作・演出:市原佐都子

出演:竹中香子、Yan Balistoy、Sascha Ö. Soydan、

Brandy Butler (映像のみ)

ドラマトゥルク: Tine Milz 美術・衣装: Stefan Britze

映像:Juan Ferrari

翻訳:オガワアヤ



以降写真すべて©Philip Frowein

ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13 TEL 075-771-6051(代表) FAX 075-746-3366 rohmtheatrekyoto.jp

■プロフィール

市原佐都子/Satoko Ichihara



劇作家・演出家・小説家・城崎国際アートセンター芸術監督。
1988 年大阪府生まれ福岡県育ち。桜美林大学にて演劇を学び、
2011 年より Q 始動。人間の行動や身体にまつわる生理、その
違和感を独自の言語センスと身体感覚で捉えた劇作、演出を行
う。2011 年、戯曲『虫』にて第 11 回 AAF 戯曲賞受賞。
2017 年『毛美子不毛話』が第 61 回岸田國士戯曲賞最終候補
となる。2019 年に初の小説集『マミトの天使』を出版。同年
『バッコスの信女 一 ホルスタインの雌』をあいちトリエンナ
ーレにて初演。同作にて第 64 回岸田國士戯曲賞受賞。2021
年、ノイマルクト劇場(チューリッヒ)と共同制作した
『Madama Butterfly』をチューリヒ・シアター・スペクタ
クル、ミュンヘン・シュピラート演劇祭等で上演。2022 年 1
月にロームシアター京都レパートリーの創造にて『妖精の問題
デラックス』を上演。 http://qqq-qqq.com/

■日本公演にあたっての推薦コメント

市原戯曲に触れた人間は無傷ではいられない。

ある者は大量の涙を流し、ある者は怒り出し、ある者は呆然とする。

今回の「Madama Butterfly」もその例外ではない。

西洋人白人男性たちの手によって戯曲やオペラに祭り上げられ、

「蝶々夫人」という物語を演じさせられ続けてきた長崎の少女は、

100年以上の時を経て市原の手で蘇り、逆襲を試みる。

それはありえない喜劇的フィクションであると同時に、

どこにでもありうる悲劇的現実でもある。

そしてそれは「私自身の物語」でないと、誰が言い切れるだろうか? ぜひ確かめに足を運んでほしい。

相馬千秋氏(世界演劇祭 2023 プログラム・ディレクター)より

市原佐都子版『Madama Butterfly(蝶々夫人)』は、このヤバいオペラの上演に関わってきた誰もが「まぁ、いいか」とスルーし続けてきた問題に真正面から切り込んだ演劇作品です。現代社会に蔓延るノイズは一切キャンセルされず、聞き心地の良い音楽に慣れたウィーンの客席からは驚きが伝わってきました。3カ国語で語られる市原さんのテキストが蝶々さんの祖国ではどのように響くのか、今からとても楽しみです!

横堀応彦氏(ドラマトゥルク、舞台芸術研究者)より



ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13 TEL 075-771-6051(代表) FAX 075-746-3366 rohmtheatrekyoto.jp

■これまでの舞台評より

一方には深く根ざした西洋への魅了、他方には自 らのアイデンティティの拒絶がある。そうして蝶々 /バタフライは「ガイジンの追っかけ」になり、自 らの美の欠如を「修正」すべく、「ハーフ」(日本語 で混血の子どもを指す言葉)の子どもを産むことを 夢見る。市原においては、蝶々という形象は悲劇的 な人物ではなく、「ガイジンの追っかけ」の典型的な 人物であり、外国人、とりわけ白人にしか魅力を感



じない女性である(これは日本においてまだアクチュアリティを失っていない)。「東洋」 という幻想から自由になった登場人物の人間性は、刺激味の強いユーモアからその深さが 測られる。

(中略)

要するに、市原は、観客を笑わせつつも、オペラ作品の西洋崇拝とオリエンタリズムの 幻想の馬鹿げた真実を言わせるのみである。だが同時に、オリエンタリズムの幻想を分析 し、そこに内在するセクシズムのみならず、とりわけ現実世界における馬鹿馬鹿しさを見 せるような、上演を貫く批評意識を見ずにいることも不可能である。物言いの率直さは、 人によっては俗悪だと捉えるかもしれないほどに達するのだが、ユーモアと、いかなる婉 曲もなく事実に即した実演にとっては有用である。誇張表現さえも、その中に一粒の真実 が含まれている限りにおいて、私たちに考えることを促すのだ。

西洋のフェミニズムの紋切り型と戯れてみせる勇気は、日本人女性は自らの解放のために西洋のフェミニズムの助けなど必要としていないという言外のメッセージを伝えている。彼女たちに必要なのは、西洋崇拝をありのままに捉え、自らの頭からそれを追い出すことなのだ。だが、この結論は日本人女性にのみではなく、考えることに頭の一部を残しておいて、自分なりの結論に達するような観客に対しても向けられている。市原の目的は観客に道徳を垂れることではなく、考えさせることにあるからだ。

(ヴィンダ・ミグナ、2022 年 5 月 26 日、La revue du spectacle)

輸入された美のイメージと<日本人女性>に対する典型的な外からの視点がこの悲劇を 生み出し、市原佐都子は高度なウィットと自己内省でそれをより豊かなものにする。

(中略)

本作の基本をなすのは、俳優とスクリーンに投影されたアバター(例えば(金髪の)セーラームーンのコスプレをしたケイト・ピンカートン)とのコミュニケーションである。いずれにしても、市原版 Madama Butterfly はラディカルな設定により文化的帰属についての議論を活性化する。

(リサ・カマン、2022年5月17日、デア・スタンダード紙)



PRESS RELEASE

ロームシアター京都 (公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 〒606-8342 京都市左京区岡崎最勝寺町13 TEL 075-771-6051(代表) FAX 075-746-3366 rohmtheatrekyoto.jp

■公演概要

ノイマルクト劇場 & 市原佐都子/Q 「Madama Butterfly」

日時:2022 年 9 月 15 日(木) 19:00 開演、16 日(金) 19:00 開演、17 日(土) 14:00 開演☆ ☆ 託児サービスあり。詳細は劇場 WEB サイトをご覧ください。

※本公演は2022年2月26日(土)、27日(日)に予定していた公演の延期開催です。

上演時間:約1時間45分

会場: ノースホール

チケット料金:全席自由 | 一般 3,500 円、ユース(25 歳以下) 2,000 円、18 歳以下 1,000 円 ※推奨年齢中学生以上

※ユース及び 18 歳以下チケットご購入者は、公演当日、受付にて年齢が確認出来る証明書をご提示くださいチケット発売日:2022 年 7 月 15 日(金)一般発売日【チケット好評発売中】

チケット取扱:

- ・オンラインチケット 24 時間購入可※要事前登録(無料)https://www.s2.e-get.jp/kyoto/pt/
- ・ロームシアター京都チケットカウンター

TEL. 075-746-3201 (窓口・電話とも 10:00~19:00/年中無休※臨時休館日を除く)

・京都コンサートホールチケットカウンター

TEL. 075-711-3231 (窓口・電話とも 10:00~17:00/第1・3月曜日休館※休日の場合は翌日)

・チケットぴあ https://t.pia.jp/ (Pコード:512-981)

主催:ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市、公益社団法人日本芸能実 演家団体協議会

製作:ノイマルクト劇場

共同製作:一般社団法人 Q、シアターコモンズ、チューリヒ・シアター・スペクタクル

制作協力:城崎国際アートセンター

後援: 在日スイス大使館

文化庁 統括団体によるアートキャラバン事業 (コロナ禍からの文化芸術活動の再興支援事業)、「JAPAN LIVE YELL project」、ステージ インキュベーション キョウト

●豊岡公演<豊岡演劇祭 2022>

9/22(木)~24(土) 城崎国際アートセンター 詳細はこちら

【関連企画】

舞台芸術プロデュース講座 演劇・ダンス編 プレ企画 ドラマトゥルクの仕事

講師: Tine Milz(ノイマルクト劇場)

日時:2022年9月17日(土)16:30

会場:ロームシアター京都 パークプラザ 3 階会議室

参加料:無料・要事前申込(定員 15 名先着順)

申込開始:8月19日(金)~ ロームシアター京都ウェブサイトよりお申込ください。